

歌とダンスと漫才で平和への思いを届ける

MAY.R

事業目的

原爆や戦争を知識でしか知らない人たちに対し、原爆投下時の迫真に迫る演技を見て、そこに生きていた人々の生活や被爆体験を体感してもらうことにより、時を超えて感情を共有し、平和の尊さを実感するとともに今を生きる活力につなげていくことを目指します。

事業内容

長崎に住む職業や立場、年齢の違う人たちと北海道出身のアップダウンの2人が協力し合い、“歌”“ダンス”“漫才”“音楽”を通して愛・平和・希望を表現し体感する場をつくります



事業実施のきっかけ

戦争や原爆のことは子どもの頃から平和学習を通して学ぶことで、“今”に生きる私たちにとっては過去の悲しい歴史として捉えることができましたが、自ら何かをしようとは思っていませんでした。そのような中において、令和4年に開催されたアップダウンによる“原爆体験伝承漫才”を観たときに、戦時中に生きた人たちの心が伝わってくるのを感じたことで、今回、相反する全く質の異なる“戦争”と“平和”を表現することで今を生きようとする全ての生命の尊さを伝え続けたいと思いました。

この事業
の
新しさ

核兵器や原爆に関するテーマを「漫才」という切り口をはじめとして、多角的な視点で伝える取組みは、関心のない方など幅広い方が参加しやすい

今回の事業を通して感じたこと

原爆や戦争について興味のなかった世代にも平和の大切さを伝えることができました。また、皆で1つのテーマや1つのことを目指すとき、1人ではなく同じ思いを持った人々が集まれば大きな力を生み出し、実現可能となることを感じました。

皆が目指すものが破壊ではなく、平和をもたらすものに意識が変わったとき、世界平和が実現するときがくるように感じました。

今後の展望

アンケートの意見をもとに私たちにできることがあれば何かを企画したいと思う若者や子供たちに関わってもらい、より多くの人に広がるように考えています。

長崎の教育現場でも“原爆体験伝承漫才”が取り扱われ、今後も引き続き行われることを期待したいと思います。

